

読書のすゝめ HP版

その3

H 28 4 / 18

新任の先生紹介③

今号も新任の先生方のおすすめ本を紹介します。

『算法少女』

遠藤寛子 (ちくま学芸書房)

私は、小さい頃から算数のパズルを解くのが好きだった。高校の数学の教師だった父が、「算数パズル」の本を何冊も買い与えてくれた影響が強かったように思う。

この『算法少女』という本は、江戸時代、医師である父から数学の手ほどきをうけた主人公あきが、幼い頃より数学の才を発揮し、数学好きの少女として活躍する本である。医師といっても、貧しい家に育ったあきが、偉い身分のお殿様と和算の問題での勝負の勝ったときは、思わず私もガッツポーズをしたりしながら読んだ。

難しい数学の式とかが出てくるわけではないので、数学があまり好きでない人でも楽しく読める。この本を読んで、数学が好きになってくれれば、本当に嬉しく思う。一緒に問題を解いてガッツポーズしたいものである。



『あと少し、もう少し』 瀬尾まいこ (新潮社)

私は新春に開催される箱根駅伝を毎年楽しみにしている。「走る」「禪をつなぐ」シンプルだが、そこには選手個々のドラマを思いめぐらすことができるからだ。そこで「あと少し、もう少し」(瀬尾まいこ著)を紹介したい。私がこの本を手にとったのは、文庫の表紙が駅伝のイラストであったからだ。読みすすめると登場する寄せ集めの6人の選手は、今まで出会った生徒の姿と重なる。苦しい気持ち最后在には気持ちの良い風となって流れる。追体験できるこの本を鉾田二高の皆さんに薦めたい。

『イチロー 262のメッセージ』

イチロー選手が発する言葉には力があります。一流選手の考え方、生き方を知ることによって、自分自身を見つめ直す良いきっかけになるのでは……。特に、運動部に所属している生徒にオススメです。



※「できなくてもしょうがない」は、終わってから思うことであって、途中にそれを思ったら、絶対に達成できません。

※結果が出ないとき、どういう自分でいられるか。決してあきらめない姿勢が、何かを生み出すきっかけをつくる。(抜粋)

新生活に心躍らせながら、慣れない環境に、心も体もへとへと…。
あたたかく過ぎる毎日ですが、心の栄養に「一冊の本を！」

